

晏陽初の平民教育思想と郷村建設運動

—河北省定県の教育実践を中心として—

李 新 斌

Abstract

Y. C. James Yen, known as a global civilian educationalist, once worked for an anti-illiteracy campaign in the battlefield during World War I; this is considered to be the origin of the civilian education movement in China. After returning to China in 1920, as a co-founder of the Association for Promoting Mass Education, he thrust himself vigorously into civilian education and rural construction; however, after he emigrated in 1949, his thoughts and personal characteristics were both criticized unfairly, and he was not mentioned in public discourse for half a century. In 1985, 36 years later, he returned to his homeland, and his study began to gain popularity. Prior to this, his perspectives had already been extensively researched in Japan. Based on the research of Yen's thoughts, this article emphasizes the significant influence of his principles on civilian education and rural construction. This article also contributes further discussion on the enlightenment of rural construction development in modern China, and analyzes the limitations of Yen's principles.

キーワード……晏初陽 平民教育運動 定県 四大教育

はじめに

中国近代史は、一般的にアヘン戦争が起こった1840年から1949年中華人民共和国の成立までで区分されている。この間、中国では激しい社会変化が次々と起こる。アヘン戦争の敗北によって中国封建社会のイギリスによる半植民地化が始まり、また西欧列強の直接的な侵略や日中戦争、1946年に始まる国共内戦などを経て、中華民族は満身創痕になった。中国の近代史上、「百年恥辱」と呼ばれる時代である。

一方、封建体制の崩壊にともない、中国国内でいろいろな思想運動がおこった。その中でも、最も代表的なのは「五・四運動」である。国家の運命を変えるため、中国の知識人の一部は、ロシア革命とマルクス主義の示唆する方向をめざした。その歩みは1921年に共産党の成立によって新しい段階に入っていく。また別の一つの知識人グループは、デューイ教育理論の民族化と、体制内変革を徐々にすすめようとする改良主義とに包括される教育者・教育活動家たちであった。彼らは端的にいえば「教育改造から社会改造へ」の道を歩もうとする一群である。ちょうど共産党成立前後の時期、これらの知識人が都市の労働者・店員層を主たる対象に、大

衆教育（成人教育）運動をはじめ¹⁾。これがいわゆる平民教育運動である。

この平民教育運動において大きな役割を果たした人物が、陶行知と晏陽初らである。陶行知は1914年にアメリカに私費留学し、コロンビア大学でデューイに師事して、帰国後、南京高等師範学校（のちに東南大学）で教育学を担当した。中国最初の教育学担当の教授であった²⁾。また晏陽初は、中国近代における平民教育運動と郷村建設運動の指導者として知られる人物である。彼はアメリカに留学し、第一次世界大戦時に、フランスに渡って中国人労働者の識字教育を行った。これをきっかけに、祖国4億人口の80%が農民であり、彼らは文字を読み、書くことができなかつた現実をふまえ、それを変えるべくために、平民教育を推進することを決意する³⁾。教育実践を進めるなか、都市部で平民教育を推進する上で限界があることに気づいた彼は、郷村へと活動の拠点を変更した。その後、晏は河北省定県を舞台に郷村建設運動を展開する。この運動は当時の中国社会に大きな影響を与えた。

1949年、内戦に敗北した中国国民党が台湾に敗走した。晏陽初は中国共産党との協力関係を選ばず、アメリカに移住した。そのため、晏は共産党から平民教育運動とその指導者として批判の対象とされる。1985年に晏の帰国の宿願がかなえられ、1986年に名誉回復されたことになる。これにより、中国国内の晏陽初と平民教育運動における研究はようやく進んできた。その代表者は中国では宋恩榮であり、日本では渋谷忠男であった。近代化に邁進する過程において、日本の農村はかつての中国の農村の状況とは全く異なっていた。しかし、直面した問題が中国と類似していると渋谷は考えた。そのため、日本社会に晏陽初の全体像を紹介した⁴⁾。日本における晏陽初の研究では中国より際立った研究成果があがっている。

本稿では、日中両国の先行研究を踏まえ、晏陽初本人の著作を資料とし、その平民教育運動の主な内容と過程を整理する。そして、定県で実践された郷村建設運動の内容の検討をもとにし、平民教育運動の特徴などについて探っていく。

1 識字教育

1.1 晏陽初平民教育思想形成とフランスでの識字教育実践

晏陽初は、1890年10月26日に四川省巴中県に生まれ、5人兄弟の末子であった。家系図によれば、父親晏美堂は晏陽初を「興復」と名付け、字を「陽初」とした⁵⁾。「国家民族の復興」「昇り始めた太陽」の意味が込められている。5才の時から父に「四書」、「五経」を学び、啓蒙教育を受けていた。1898年に8才の晏陽初は父が経営する塾に入学し、体系的な教育を受け始めた。中国古典の「民為邦本、本固邦寧」、「民為貴、君為輕」という民本思想に惹かれた⁶⁾。

1903年、晏陽初は家を離れ、キリスト教宣教師団「中国内地会」によって設立された西洋式学校「西学堂」に入学した。1907年にその「西学堂」を卒業し、米国「メソジスト会」が設立した華美高等学校に入学した。そこを優秀な成績で卒業したのち、首席で香港大学に進学した。1916年エール大学で政治学や経済学を学び、引き続きプリンストン大学で歴史学を学んで、17

年に修士学位を得た⁷⁾。以上の経歴から見ると、晏陽初は学生時代に中国の伝統的な儒教と西方文明に大きな影響を受けていることがわかる。晏陽初は 3C が自分の人生に大きな影響を与えたとよく言う。3C とは、Confucius (孔子)、Christ (キリスト)、Coolies (苦力) である⁸⁾。孔子とキリストを知らぬ者はいないが、苦力は第一次世界大戦のとき、戦争協力者としてフランスに送られ、戦争物質の輸送などに従事した 20 万人の中国人労働者のことである。この中国人労働者たちが晏陽初とどう結びつき、晏の平民教育思想にどんな影響を与えたかについて検討したい。

1914 年、第一次世界大戦が勃発すると、中国はドイツに宣戦布告した。英仏側への戦争協力として、中国政府は河北省や山東省から労働者を約 20 万人募集し、ヨーロッパの戦場へと送り込んだ。彼らは塹壕を掘り、鉄道を敷設し、銃砲を製造することなどに従事することが目的であった。彼らの 90% は読み書きができない人たちであった。もちろん、外国語もできず、異国の生活習慣やしきたりなどもわからず、生活は非常に困難であった⁹⁾。この 20 万人の労働者がともに労働する英・仏の労働者に軽蔑されることはよくあることだった。彼らは知識水準が低く、基本的な礼儀も知らなかった。例えば電車の中で落花生を食べて、まわりを皮だらけにする、電車の中で痰を吐く、フランス人の男女が手をつないで歩いていると、これを指さして笑うなど、国家のメンツを汚すような行動がよく見られた。フランス人はそれまで中国人の姿を見たことがないため、彼らの行動に対して軽蔑し、すべての中国人が醜く怪しいものだとして認識していた。また時々衣服が派手な中国人を見ると、中国人ではなく、日本人であるともあった¹⁰⁾。

1918 年、晏陽初はエール大学を卒業し、「北米キリスト教青年会」から派遣されて、募集された有志留学生らとともにフランスに赴いた。派遣された理由について、宋恩榮は以下のように述べる、「北米青年会が双方の言語に通じる中国人留学生にヨーロッパ戦場で中国人労働者のために働くことを呼びかけた時、ちょうど晏陽初は学業が一段落を終えようとしていた。晏は激情を抑えることができず、国を愛し、人を愛し、主を愛するという思いに突き動かされるままに、毅然として参加を申し出た¹¹⁾」。小林善文の研究によると、中国人労働者は指揮権を持つ英・仏の軍官に対して絶えず反抗的であったために、晏らに課された任務には、識字教育に加えて労働者の感情を教育を通して安定させるという人心収攬の目的が加えられていた¹²⁾。この経験が晏の平民教育思想と郷村建設運動にきわめて重大な影響を与えたといえる。

以上のように、フランスでは中国人労働者の荒っぽく、教養のない姿が見られ、それにより軽蔑されることがあった。晏はその様子を見て、不快に思い、20 万ほどの「苦力」が困らないように、通訳以外の何かをやらなければならないと考えるようになる¹³⁾。中国人労働者の通訳を担当することや生活援助などのことを行くと、「苦力」の苦痛を軽減できるという晏と共に派遣されたボランティアたちの認識に対して、晏は「苦力」の苦痛を軽減したいなら、彼らの知識と人格を向上させることが重要で、そのために、教育から着手しなければならないと認識して

いる¹⁴⁾。そこで彼は、初めて中国の「平民」に接し、「平民」に対して教育が必要であるという認識が芽生えたといえる。

晏陽初はフランスの北部で 5000 人の「苦力」を管理し、彼らの生活上の問題の解決などに努めていた。ある日、1 人の中国人労働者が晏のところに来て、びくびくしながら、「晏先生、家に手紙を書いてもらえませんか」と頼んだ。晏は快諾したところ、次の日には、4、5 人が手紙を書いてもらいに来た。1 カ月後それは、100 人規模となった¹⁵⁾。晏はこのような状況が続くと、自分ひとりでは対応できなくなると考えた。また、彼らに簡単な中国語を教えることで、手紙を書けるだけでなく、フランスの「下流」階級のように新聞によって、全世界のことがわかると「苦力」の苦境が改善できるのではないかと考え始めた。これを契機に、晏は「苦力」に識字教育を行いながら、『華工週報』を刊行した¹⁶⁾。

晏は、毎晩講義をおこない、漢文班を設けて識字教育に熱心に取り組んだ。中国人労働者たちは 10 時間に及ぶ苦しい労働を終えた後でも熱心に聴講し、本を読んだ。識字クラスは 3 カ月間であったが、効果は非常に高かった。この識字クラスは「苦力」の間に急速に広がっていった。一年後、「苦力」20 万人の中、38%の人々が手紙の読み書きができるようになり、『華工週報』が中国人労働者たちの間で回覧された¹⁷⁾。この活動を通して、晏陽初の労働者に対する先入観が取り払われ、新しい思想が形成された。そのひとつは、「苦力」と呼ばれる労働者の「苦しみ」に気づき、彼らの中に潜在している「力」を認識したことである。というのは、中国の農民たちは愚かではないし、知恵も能力も備えているということだ。ただ、「上流」階級に比べて、教育のチャンスがなかったということだけなのである。もう一つは、中国で「高級知識人」と称される人々こそ無知であるという考えである。彼らは自分の同胞たちについて一切も知らない¹⁸⁾。この認識に基づいて、晏陽初は中国国内で平民の「力」を開発するために平民教育が必要であるとの考えに至る。

第一次世界大戦が終結すると、中国人労働者は次々を帰国した。前述したように、彼らがフランスに来た時、識字率が 20%であったが、晏の実践活動により、識字率は 38%になっていた。そのため、晏の教育活動は国内外で注目を集めた¹⁹⁾。晏は帰国後平民教育に従事することを志向したが、アメリカのプリンストン大学政治研究所から奨学金を得る機会にめぐまれたため、アメリカで学業を続けることに決めた。この時期が、まさに晏の生涯に渡って従事する事業の発端である。

1.2 中国国内の識字教育

1920 年、晏陽初はアメリカからの帰国の途に就いた。科学と民主の思想の洗礼を受けた晏陽初は、人生の目標を決めた。それは、激動の時代に文字を読み書きできない大衆への教育事業に専心するという事だった。帰国後の晏は強い情熱を持ち、フランスで実践した労働者への教育事業を国内で推進することを考えていた。しかし、その時の中国社会は混乱しており、経

済が停滞し続けている苛酷な現状であった。

当時、簡単な文字を読み書きできない人が約3億人おり、中国総人口の80%を占めた²⁰⁾。このうち義務教育の対象者が約6千万人であるので、約2億4千万人の少年と成人に対して一切の就学の機関が整備されていなかったということになる。この2億4千万の少年と成人がほとんど教育を受けていなかったということである²¹⁾。この現状に対して晏は、「4億の同胞が立ち上がり、教育を広め、皆が奮い立ち、皆が新しい自分を創造すれば中華民族は必ず強く盛んになると確信している²²⁾」と述べた。

当時の中国では平民教育の普及をめぐるさまざまな意見があった。大きく二つに分けると二つある、一つ目は先進的な西洋に倣い、そのままその理念や方法を中国に導入する考え方である。二つ目は晏陽初や陶行知らの中国の国情に基づいた新しい方法やモデルを創造しなければならないという主張である。この主張に関して、「中国の問題は、極めて複雑であるため、まずは根本的な解決方法を探求しなければならない。頭が痛いから頭を治療する、足が痛いから足を治療するという対症療法では、結局事態をもつれさせ、混乱を助長することになる。ここで言う根本的な解決方法とは、問題自体ではなく、問題を発生させた人に着目することである。社会の各種の問題は、自然に発生したものではなく、人から発生したものであり、問題を発生させた人がおり、問題を解決するのもまた人である。したがって、そこに問題があり、解決できない場合、その障害は問題自体にあるのではなく、この問題を惹起した人にあるのである。そこで、中国の4億の民衆が共有する各種問題について、根本的な方法を見出そうと思えば、その解決の鍵を4億の民衆自身に求めなければならない²³⁾」晏陽初は以上のように述べている。

この考えに基づいて、晏は平民の生活水準と心理的なニーズにあわせて、平民教育活動の実施の方法として、以下の4点を重視し、計画した。第一に、平民教育に関する観念を変えなければいけない。すなわち、平民教育は教育事業であり、慈善事業ではないという考え方に変えなければならない。第二に、専門的な機関を設置しなければならない。第三に、平民教育の制度を作らなければならない。そして、第四に、その規模を拡大するということである²⁴⁾。また、平民教育を実施するにあたり、三種の教育形態があると指摘している。一つ目は、識字教育である。80%の国民が非識字者であり、これを克服するため、識字教育を中心に据える。二つ目は生計教育である。生計教育とは、都市部では工業、農村部では農業を産業の中心に置くことで、平民の生活改善を目指すものである。三つ目は公共心のための公民教育である²⁵⁾。

以上の認識をもって、晏は中華キリスト教青年会全国協会の余日章理事長との協力のもと、青年会に平民教育部を増設した。青年会平民教育部では、科学的な方法を用いて問題を研究し、その解決をはかる。実用を第一目的とした教材を編集し、教育を行うという活動方針を策定した²⁶⁾。晏は、当時各地に散在していた貧民学校、工読学校について綿密な調査を行い、その実施状況を詳細に分析した。それによって、平民教育を推進する際に、以下の3つの問題が明らかになった²⁷⁾。

- (1) 文難 中国の文字は、まず読み書きが難しい、そして、どんな文字を、あるいはどれぐらいの文字を身につけるべきかを判断するのが難しい。
- (2) 忙難 平民たちは貧しくて、終日衣食住に時間がかかり、教育を受ける時間が無い。
- (3) 窮難 文字を読み書きできない平民たちはほとんど貧しく、教育を受けるためのお金がない。

晏はこの「3難」に対して、第1難の「文難」から問題を解決し始めた。まず、大学生50人余りを動員して、統計により民衆の日常生活で使用する回数の高い文字を選出した。そのほかの方法として、主観的な選択方法もとった。これは、動員された人たちが、自分の感覚でよく使われる文字を決める方法である。結果として、3000字が選ばれた。またこの3000文字を使い、フランスで教材として使用していた『千字課』を新たに編集した。フランスですでに2冊の『千字課』を編集したが、今回実践によって、さらに4冊まで完成した。計96コマ、毎日1コマ、4か月で終了になる。当時平民教育運動が広範囲に展開されていたため、『千字課』のテキストも表1のようにさまざまなものがある²⁸⁾。

「忙難」に関しては、「文難」の解決によって、自然に解決すると晏は考えていた。これは、平民たちがいくら忙しくても、1日に1時間の勉強時間は確保できると考えていたからである。

「窮難」に対しては、まず学費を無料にする。本代は払わなければならないが、庶民の自尊心と独立性を養成するため、非常に貧しいが、成績が優秀な人に対しては、本も表彰する形で贈った。晏は以上の方法で、「3難」についての問題を、短い期間内に低コストで解決した。

表 1 『千字課』テキスト

名称	冊	編集者	発行者	出版日	出版数	価格	備考
平民千字課	4	晏陽初 傅弱愚 黄沧渔	中华基督教青年会全国协会	1922 年 2 月	1924 年 7 月 3 版	1 冊 7 分 100 冊 8 折 500 冊 7 折	
平民千字課	4	朱经农 陶知行	商务印书馆	1923 年 9 月	1924 年 3 月 41 版	1 冊 3 分	附第 1 冊 教学法
平民千字課	4	魏水心 董文	世界书局	1925 年 4 月		1 冊 3 分	附教学法 全部
青年平民读本	4	卓凯泽	上海书店	1925 年 7 月		1 冊 3 分	
平民課本	4	黎锦晖 刘传厚	中华书局	1924 年 3 月	1924 年 11 月 3 版	1 冊 3 分	附教学法 全部
平民課本	4	李六如	长沙广文书局	1922 年 10 月	1924 年 3 月 4 版	1 冊 8.4 分	
成人读本	4	曹典琦	长沙文化书局	1921 年 10 月	1925 年 5 月 4 版	1 冊 4 分	
新千字課	4	曹典琦	长沙贡院西街 野村印刷局	1924 年 6 月	1924 年 10 月再版	1 冊 3.5 分	
平民识字課本	1	张思明 戴联荫	奉天教科书编审处	不明	不明	不明	

出所：晏陽初著、宋恩榮編、『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014 年により
執筆者作成

1.3 湖南省長沙市と山東省煙台市の経験

1920 年 8 月、中国に帰った晏用初は、平民教育運動はまず調査から着手しなければならないと考え、全国 19 省を遊歴して、各地で展開されつつあった識字教育運動の実情を調査し始めた²⁹⁾。1922 年春、晏は、全国的な調査を終えた後、都市の位置・規模・産業・気風などの面から、中国の数多くの都市を代表するものと考えた湖南省の長沙より平民教育運動の実践を開始した³⁰⁾。

長沙に入った晏の一行は、地元の有力者の協力を得て、平民教育運動を五段階に分けた³¹⁾。第一に、地元の有識者、有力者に運動を説明し、協力を要請した。第二に、全市の大学生、高校生を動員して、ポスターを貼り、ビラをまき、街で民衆に直接訴えた。第三に、学生の募集

活動を行った。各区それぞれ募集活動を行ったところわずか3時間で計2000名余りの学生がこの活動に登録した³²⁾。第四に、校舎の確保を行った。第五に、教師を募集した。3日後に集まった学生は1300名余りになった。彼らを70前後のクラスに編成し、市内各所の公私の学校・工会・商会・教会・店舗・住宅・男女の青年会などの部屋を借りて教室とし、80名の指導員が一週間に6日、1日に1時間半の授業を4カ月にわたって展開した³³⁾。

1923年2月、山東省煙台市のキリスト教青年会が、晏に対して、平民教育運動を指導するよう要請してきた³⁴⁾。そして煙台でも長沙に倣った平民教育運動が展開された。街頭デモには15000名あまりの平民が参加し、100名の男女教員が2099名の受講生に『平民千字課』を使った識字教育を実施した。このうち卒業試験の合格者は1147名で、年齢は8歳から52歳にわたっていた³⁵⁾。

2 中華平民教育促進会と平民教育の使命

2.1 中華平民教育促進会の組織

1923年、晏陽初は「生活が児童を陶冶することができる」という「生活教育」を実践していた陶行知らと共同で「中華平民教育促進会」を組織した。平民教育促進会は、平民教育のための学術機関である。平民教育の推進は、各地の平民教育促進会の責任に基づいて行われた。平民教育の普及という目的を達成するために、全国各地が協力し進めた。この「中華平民教育促進会」は、平民教育運動の推進母体となった。「中華平民教育促進会」は、幹事長の下に次の3つの組織を持つ³⁶⁾。

(1) 行政組織

総幹事のもとに総務、都市、農村、華僑の4部があり、一切の行政事務は各部に分担される。

(2) 研究組織

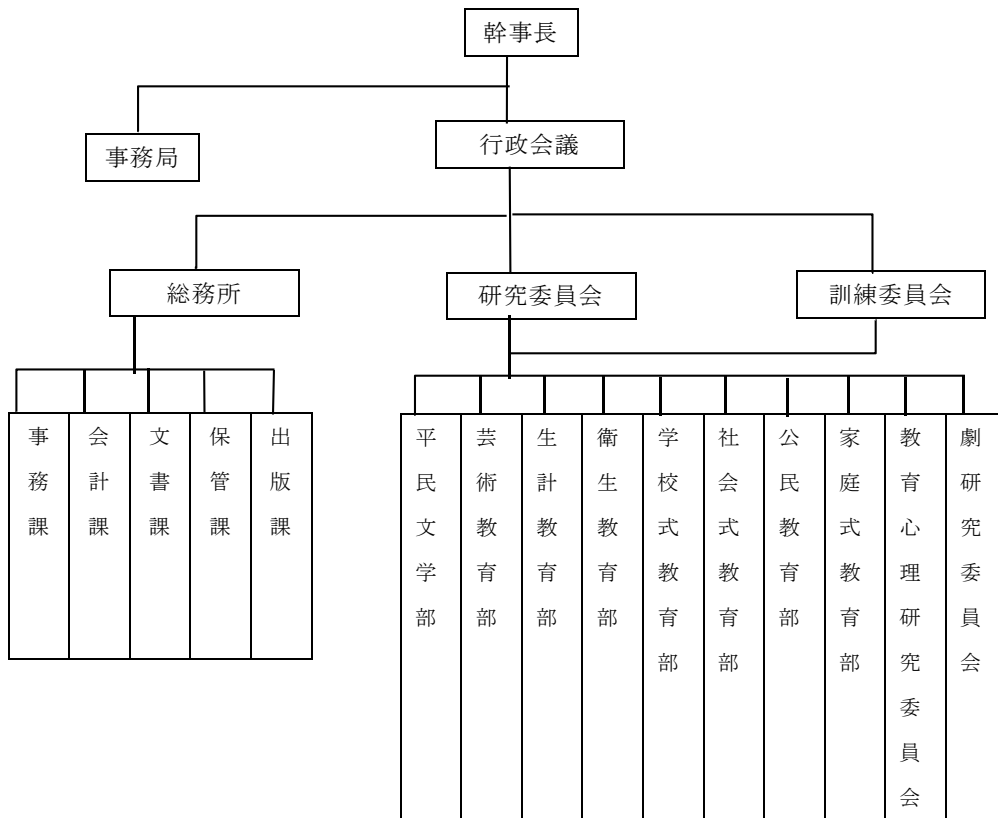
調査統計、平民文学、監督訓練、平民教育、生計教育、直感教育、婦女教育、健康教育の8科があり、各科で全ての研究事務を分担する。

(3) 訓練組織

平民教育師範院、育才院、研究院を設立し、全国の平民教育事業に必要な人材を養成する。

平民教育促進会が以上のように組織されたのは1927年ごろであった。その後、1934年10月に河北省定県で開かれた第2次郷村建設討論会の晏の報告によると、平民教育促進会の組織が図1のように大きく変わっている³⁷⁾。おそらく農村で平民教育活動を展開するにあたり、農村の状況とニーズによって変わったからであろう。

図1 中華平民教育促進会組織システム



出所：晏陽初著、宋恩榮編、『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年により
執筆作成

2.2 平民教育の目的

晏陽初らは「中華平民教育促進会」のもとに、「文盲を除き、新民をつくる」というスローガンを掲げた。その特徴は以下の3点である³⁸⁾。

- (1) 知識があり、生産力があり、公共心がある全面的な人材を養成する。
- (2) 社会の必要な人材を養成し、社会の事業を発展させる。
- (3) 国家を建設する国民を養成し、国際的地位の向上をはかる。

平民教育促進会がめざすこの知識力、生産力、公德心がある新民を養成するため、晏は次の3種類の教育が必要であると主張している。

- (1) 文字教育—民智³⁹⁾

晏陽初は「学問は知識人の専門であり、ほかの人は勉強する必要がない」という観念が根本的に誤っていると批判し、識字は人類共通の権利であり、どんな人でも享受すべきものである

と認識していた。そして、中国で影響力がある新文化運動は少数の学者による運動であり、多くの平民とは何の関係もないと批評した。また、人類の発展から見ると、知識は必要不可欠であり、個人であろうと国家であろうと、知識によってその発展が決められると考えた。知識を得ようと思えば、文字を知らなければならない。したがって、平民教育の第一歩は、識字教育でなければならないと晏は主張していた。

(2) 生計教育—民生⁴⁰⁾

晏は中国人によく見られる弱点に着目し、知識人の姿を批判しながら、生計教育を提唱した。生計教育によって、人々に生産の技能を持たせ、自立可能な国民が養成できる。全国の人民がすべて生産の能力を持てば、国民の生活は必ず豊かになり、社会経済は活発となり、将来世界経済が中国の影響を受けることになると予想した。

(3) 公民教育—民徳⁴¹⁾

晏は国家民族の立場に立ち、公的利益を無視し、自らの利益のみを追求する国民を批判しながら、公民の公德心を養成することが必要だと主張した。その国民は皆知識が卓越し、彼らは自らの利害のみ考え、国家社会の利害を顧みないのである。平民教育がこのように利己的な国民を養成するようでは国家の利益とならない。したがって、平民教育は、文字教育、生計教育のほかに公民教育を行い、心から国に奉仕する公民を養成することをめざすべきだと主張していた。

2.3 平民教育の原則と実施方法

晏陽初の指導する中華平民教育促進会は、平民教育の原則に関して、以下の6項を掲げた⁴²⁾。

(1) すべての国民を対象とする。すなわち、学齢時期を過ぎても、字を読めないまたは識字能力が欠けるすべての人が平民教育を受ける必要がある。

(2) 平民の必要性を基準とする。平民は、ある種の技能を必要としているために学びに来る。したがって、学んだ知識は役に立たなければならない。

(3) 平民の生活状況に適合する。平民の多くは苦しくて貧しい生活の状況であるため、毎日の労働時間は非常に長い。教育を受ける時間とお金がない。そこで、平民教育は平民の実際の状況を鑑み、時間を短縮し、経費を節減しなければならない。教育期間は四カ月を超えてはならない。

(4) 自国の国情と人民の心理を基礎とする。平民教育は中国固有の教育であるため、自国の国情、人民の心理に基づき、目標、方法および段取りを定めなければならない。

(5) 地方組織が自主的に責任を負う。平民教育の規模が全国的であるため、中華平民教育促進会、あるいは他の一つの組織が当活動のすべてを担うことはできない。ある地方の人が、その地方の資金により、その地方の事業として実施してこそ、平民教育運動は続けることが可能となり、その地方の責任感と自立心の精神を養成することができる。

(6) 誰でも参加できること。

平民教育の実施方法について、晏は以下の三つを計画した。①学校型教育（学校式教育は、どちらかというと青年に適している。青年は頭がよく、思考が活発で、形式を整えて系統的な訓練を行えば容易に効果が得られる。）②社会型教育（成人は、年齢が高く、やることが多い。記憶力は薄弱で、社会教育を行うしかない。）③実践型教育（実践によって証明されていない空理空論は、人を心服させることはできない。平民は空論を聞き飽き、実践を見ることを好む。そこで、生計教育の面では、多くの実践型教育の方法を採り、平民が信頼し、容易に見習うことができることを目指す⁴³⁾。）

3 平民教育運動の河北省定県への展開と四大教育

3.1 河北省定県への展開

1924年から、晏陽初らは保定、京北、清河等の地区で社会調査を行っている。その調査に基づいて、平民教育の在り方も都市部と農村部では異なるため、民衆の生活実態や地域社会の状況に応じて、多様であるべきだという認識が形成されたといえる⁴⁴⁾。1925年、平民教育促進会は、北京に近い通県で農村平民教育の集中的な実験を行う準備をしていたが、国内の軍閥戦争のため、中止せざるを得なかった⁴⁵⁾。1928年まで、平民教育促進会は定県の東部第3区の62村で平民教育運動を展開しながら、調査を行っている⁴⁶⁾。晏陽初と定県の結びつきに関しては、「清朝末年、米鑑山という郷紳は自らの資産を投じて、翟城村（定県に属する）に国民学校、女子学校を設立し、画期的な成果をあげた。翟城村は省や県から「模範村」との称号を与えられるに至った。これを知っていた晏は米鑑山の息子米迪剛に「われわれは、一つの県を選び、農民の中で識字教育の実験をしたい…20年あるいは30年間活動し、その県を20世紀の中国が必要とする模範村、典型県とし、その経験を全国に広め、全国の農村建設を推進したい」と語った⁴⁷⁾。」宋恩榮が以上のように述べている。このように晏陽初は都市部の運動を行いながら、問題の関心がだんだん都会から農村へ、定県を中心とした農村へと変わっていった。1929年秋、晏陽初および平民教育促進会のすべての活動家とその家族が定県に移り住んだ。

農村に転じた理由に関しては、晏陽初の問題関心以外に、当時の政府の農村建設政策と関係あることが日本の研究者の研究結果により明らかになっている。中華民国の初年、政府が「義務教育」計画を公布すると、全国各省がペーパー・プランを組むのがやっとなというのが実態だった。そのため、この実施に取り組み、当時一定の実績をあげたのが、江蘇省の南通・無錫の2県と、ここ河北省の定県であった。晏陽初は、こうした「模範県」に目を付けた。これは、政府が政策の重点を農村経済対策におくのと対応していた⁴⁸⁾。

定県は北京から汽車で5時間ほどにある農村地帯であり、井戸が多く給水の便がいいことが特徴である。清朝末期以来、ここから開明的な地主階層の出身の人物が出て、教育重視・生産奨励を軸とする地域自治につとめたことで、定県の名は近隣に知られていた⁴⁹⁾。晏らはこの県

に入って、平民教育事業を始め、まさに当時の中国のモデル県を目指して、平民教育運動を最大限に進めた。

3.2 四大教育

晏らは定県に移って、まず社会調査を始めた。この調査は、系統的で科学的な方法により、定県の社会状況を实地調査し、農民生活、農村社会などを調査対象とし、農村の問題を解明することを目的としたものである⁵⁰⁾。この大規模な調査に馮銳、李景漢、アメリカの社会学者ガンプル（Sidney David Gamble）などが参加した。彼らは、中国で初めて現代社会学の原理と方法を採用して、県を単位とする社会調査を行った⁵¹⁾。

調査内容は、きわめて広範なものである。1929年の調査では、県レベルでは、地理、歴史、交通と輸送、政治、税、教育、信仰、風俗、災害、経済状況などが調査対象とされている。村レベルでは、村の位置、県までの距離、戸数、人数、村長の名前、年齢、職業、村の有力者、学校教員、学生の人数、小学校・中学校・大学の卒業者のほか、村の田んぼの数、主要農産物、医者と薬屋の数、寺の数などが調査対象となっている⁵²⁾。さらに、毎年の調査内容が異なり、毎年新しい項目が入っていることが注目されている。このような調査が継続して4年間行われた。

この調査を行う理由について、晏は「中国の平民教育は欧米にも日本にも模倣すべきものがない。中国国内の教育者は、これまで誰も農民の教育を重視してなかったのが、この平民教育は天地開闢以来の創造的な教育である⁵³⁾」と述べている。そして、彼は平民教育を推進するためには、三段階必要であるとした。第一段階は前述の社会調査である。第二段階は人材を養成することである。そして、第三段階はモデルを普及させることである⁵⁴⁾。

調査に基づいて、晏らは中国農村社会の欠陥を「愚・窮・弱・私」の4点にあると考えた。この4つの欠陥に対して、前述した3種の教育（識字教育、生計教育、公民教育）をさらに進め、4種の教育プランを構想した。これが晏陽初の「四大教育⁵⁵⁾」である。

- ① 「愚」に対して、これを克服するために「文芸教育」を提唱する
- ② 「窮」に対して、これを克服するために「生計教育」を提唱する
- ③ 「弱」に対して、これを克服するために「衛生教育」を提唱する
- ④ 「私」に対して、これを克服するために「公民教育」を提唱する

晏陽初は平民の知識を増やし、現代生活に適応させるという「文芸教育」、平民の生活の困難を解決し、生産力を向上させるための「生計教育」、科学的治療や公共衛生の推進を通じて、平民に健康的な生活習慣を保持させ、健康な国民をめざす「衛生教育」、団結心や協力意識などを育成して、公共心があり、国家・社会に役立つ人間を育成しようという「公民教育」である。こうした「四大教育」を提唱して、平民教育と農村建設を推進し始めた。そして、この「四大教育」を学校式・社会式・家庭式の「三大方式」を通して実践した。

晏が指導する平民教育運動は、膨大な量の調査を基礎とした研究にうらづけられていた。例えば、文芸教育に関しては、文字の研究（通用字表、基本字表、平民用語、新民用語、簡略字表を編集した）、平民文学研究（民間の舞踊、歌謡、かけ言葉、なぞなぞ、笑い話など数百万字を採用した）、教科書編集（市民千字課、農民千字課のほか、自然科学常識、社会科学常識、応用科学常識などの平易な読み物を編集した）、芸術教育研究（民間実用画、民間芸術絵画、絵の手本、掛図、民間歌曲、曲譜、劇の脚本などを収集整理した）などが行われた⁵⁶⁾。

生計教育の面では、農民生計訓練、県単位の合作社制度、植物生産改善、動物生産改善の四項目が含まれている。これは、農村経済建設の実現を目標としたものである。晏陽初は、農業・農民と科学との連結ができるように、農業科学の研究を進める大学や研究所と実験区との協力をめざし、南開大学と農業経済、金陵大学と植物改良、清華大学と植物病虫害などの活動を行った⁵⁷⁾。このように協力を得ることができたのは、まさに晏の人脈と能力の成果といえよう。

晏らは定県に入り、農民の健康と衛生を重視し、衛生教育を行った。農村では医者も薬も極度に不足していたため、農民の心身健康を改善する目的で、農村保健制度を創設する等の実践を通じて、農民の医薬経費を節減することをめざした⁵⁸⁾。

公民教育については、その団結心、公共心ある公民の育成という目標のほか、農村自治の内容が目立つ。例えば、公会堂を設立し、村民は、村内の取り決めの改正、債務の清算、道路の改修などの村の共同事務に関して、皆で集まって協議した⁵⁹⁾。このほか、晏は公民教育を行い、無宗教・無党派・無主義の色彩を持つ民衆を育成することを強調していたが、結果としてこのことは、定県農民の中に浸透させることはできなかったことが先行研究によって明らかにされている⁶⁰⁾。

4 考察

以上で述べたように、晏陽初は 1918 年にフランスへ行って中国人労働者に識字教育を行うなかで、平民に接し、その一生涯をささげることを決意した。1920 年に帰国し、長沙、煙台等で実践することで、平民教育実践活動を調査から実践へと移していった。1926 年に定県に平民教育促進会事務所を設置して、1929 年に定県に移り住んでから、農村の四大問題「愚・窮・弱・私」に対して、文芸、生計、衛生、公民という四大教育を提唱し、農村建設運動を推進した。この運動は、中国の巨大な人口、領土を考えれば、ごく限られた人々と社会にしか影響を及ぼさなかったが⁶¹⁾、社会の最低層の平民に関心を持ち、実践という形で平民教育運動と鄉村建設運動を推進することは、教育史上きわめて有意義な教育実践であった。以下、ここまで論述してきた内容を踏まえ、平民教育運動の特徴についてまとめていきたい。

(1) 平民教育運動は当時の中国の国情を重視していた。晏らは先進的な西洋に倣い、そのままその理念や方法を中国に導入するという考え方ではなく、実践に基づき、平民たちの生活水準と心理的なニーズにあわせて、平民教育を行った。そのほか、晏は平民教育促進会のもと

で推進する平民教育を従来の平民教育と違い、実践と研究を基礎として創造的に行わなければならないのだと認識していた⁶²⁾。従来の平民教育がどのようなものだったのか以下のように整理する⁶³⁾。

- ① 多くの人々は平民教育が貧民教育であると誤解していた。
- ② 従来の平民教育の多くは中学生以上の学生が余暇を利用して行っていた。
- ③ 従来の平民教育を推進した人々は、相互の連携がなかった。
- ④ 従来の平民教育は識字教育にこだわり、生産力と公共心をもつ人間の育成を目指していなかった。
- ⑤ 従来の平民教育は、その地の熱心な人士が提唱することが多く、結局その運動はある地に限定されていた。

以上の認識に基づいて、晏の指導する平民教育促進会は、当時の状況を重視して、新しくより系統的な平民教育理論と実践の方法を探求していくことになる。

(2) 平民教育運動は、調査を重視していた。調査についてはすでに述べたが、晏らは定県に入る前に、調査を行い、定県に移り住んだ後、4年間の調査を続けたことがわかる。晏陽初は1934年に定県で開かれた第二次郷村工作討論会で調査の重要性を説明した⁶⁴⁾。それが系統的で科学的な方法により、定県の一切の社会状況を实地に調査し、農民生活、農村社会の一般的な問題及び定県固有の事実と問題を把握して、結論及び意見を出す。その結論と意見は、「四大教育」実施の参考資料として使用される。

(3) 平民教育を推進する際に、科学的な方法がよく利用された。例えば、平民千字課という教材を編集する際、50人ほどの大学生が、日常的に使用する文書、図書、雑誌、民謡、帳簿、契約書、告示、町名、商標などから、150万字の材料を集め、それぞれの字が出現する回数の統計データを取り、出現率の高い字を選び、常用字を決めた。そのうち、使用率の高い約1000字を選び、この千字課という教材を編集した⁶⁵⁾。この方法は時間がかかり、仕事量も膨大だったが、計算機が普及されていない時代にこれ以外に合理的な方法がなかったのであろう。このほか、生計教育に属する植物生産改進黨、動物生産改進黨の項目において、科学的な方法を利用し、実験しながら、綿、小麦の品種を改良した⁶⁶⁾。

(4) 平民教育は教育救国となっていた。平民教育の緊急的な任務に関して、晏は以下のことを述べた。「不幸にも中国が置かれている立場は危険極まりなく、救国の責任は数十年後の人身に負わせるわけにはいかず、今は文盲と呼ばれている青年と成人に任せる他ないのである⁶⁷⁾。」確かに、当時第一次世界大戦、国内の軍閥戦争、日中戦争などの時代背景のもとに、晏本人の教育理想と国家民族を危機から救うという問題意識と深い関係があるといえる。

おわりに

本稿では、先行研究を踏まえ、平民教育運動とこの運動の郷村への展開を考察した。晏陽初はボランティアとしてフランスに渡り、戦場で苦勞している中国人労働者の姿を目の当たりにし、将来平民教育に従事することを決めた。まさにこれは晏の平民教育思想の源泉であることが分かった。1920年に帰国した晏は平民教育促進会を本部とし、識字教育を行いながら、識字教育、生計教育、公民教育という三大教育を打ち出した。その後、長沙、煙台等都市部での活動を経て、晏らが定県を選び、平民教育事業の中心を農村に転じ、三大教育を一步進め、四大教育を出した。本稿では、以上に述べたことを振り返り、先行研究を取り上げ、平民教育に関する特徴等を考察した。

晏陽初は「平民教育の父」と呼ばれ、また1943年にニューヨークで開催されたコペルニクス逝去400周年記念会で「現代の革命的貢献を成した10人の世界の偉人」に選ばれた。まさにこの名誉に値する。本稿では、1949年以降の晏の指導の下で世界の平民をめざして推進された平民教育運動について考察できなかった。このほか、前述した平民教育と郷村建設運動の限界なども考察できなかった。これらを次回の課題として考察しておきたい。今日、政府の指導の下で、中国は農村問題の解決をめざし、新農村建設運動を展開しているところである。また、2017年10月に開かれた中国共産党第19回大会で、2020年までに、中国国民全部の人口を貧困状態から脱却しようというスローガンが出された。これらの目標を実現するにあたり、平民教育、あるいは農民教育の視点からたくさんの課題があると思われる。晏陽初の平民教育運動における郷村建設運動の実践方法と思想が今日の農村問題解決に参考になるかどうかについて、次回検討を行いたい。

〈注〉

- 1) 梅根悟監修、『世界教育史大系4 中国教育史』、講談社、1975年、p.112
- 2) 小林善文著、『中国近代教育の普及と改革に関する研究』、汲古書院、2002年、p.403
- 3) 晏陽初著、宋恩榮編、「关于平民教育精神的讲话」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.34
- 4) 宋恩榮編、鎌田文彦訳、『晏陽初一その平民教育と郷村建設』、農山漁村文化協会、2000年、p.14
- 5) 同上、p.311
- 6) 張海英・田淵五十生著、「近現代の中国における識字教育」『奈良教育大学紀要』、第41巻 第1号、1992年、p.64
- 7) 宋恩榮編、鎌田文彦訳、『晏陽初一その平民教育と郷村建設』、農山漁村文化協会、2000年、p.312
- 8) 晏陽初著、宋恩榮編、「创造转化与自我实现」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.544
- 9) 晏陽初著、宋恩榮編、「平民教育新运动」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.2
- 10) 晏陽初著、宋恩榮編、「关于平民教育精神的讲话」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.32
- 11) 宋恩榮編、鎌田文彦訳、『晏陽初一その平民教育と郷村建設』、農山漁村文化協会、2000年、p.56
- 12) 小林善文著、『中国近代教育の普及と改革に関する研究』、汲古書院、2002年、p.366
- 13) 晏陽初著、宋恩榮編、「关于平民教育精神的讲话」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.33

- 14) 同上、p.33
- 15) 宋恩榮編、鎌田文彦訳、『晏陽初—その平民教育と郷村建設』、農山漁村文化協会、2000年、p.59
- 16) 晏陽初著、宋恩榮編、「关于平民教育精神的讲话」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.33
- 17) 張海英・田淵五十生著、「近現代の中国における識字教育」『奈良教育大学紀要』、第41巻 第1号、1992年、p.64
- 18) 晏陽初著、宋恩榮編、「关于平民教育精神的讲话」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.34
- 19) 宋恩榮編、鎌田文彦訳、『晏陽初—その平民教育と郷村建設』、農山漁村文化協会、2000年、p.65
- 20) 晏陽初著、宋恩榮編、「关于平民教育精神的讲话」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.34
- 21) 同上、p.35
- 22) 同上、p.67
- 23) 宋恩榮編、鎌田文彦訳、『晏陽初—その平民教育と郷村建設』、農山漁村文化協会、2000年、p.118
- 24) 晏陽初著、宋恩榮編、「关于平民教育精神的讲话」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.35
- 25) 同上、p.36
- 26) 晏陽初著、宋恩榮編、「平民教育的真义」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.68
- 27) 晏陽初著、宋恩榮編、「关于平民教育精神的讲话」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.37
- 28) 晏陽初著、宋恩榮編、「平民学校教材问题」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.47
- 29) 小林善文著、『中国近代教育の普及と改革に関する研究』、汲古書院、2002年、p.366
- 30) 同上、p.367
- 31) 宋恩榮編、鎌田文彦訳、『晏陽初—その平民教育と郷村建設』、農山漁村文化協会、2000年、p.70
- 32) 晏陽初著、宋恩榮編、「关于平民教育精神的讲话」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.39
- 33) 同上、p.39
- 34) 宋恩榮編、鎌田文彦訳、『晏陽初—その平民教育と郷村建設』、農山漁村文化協会、2000年、p.72
- 35) 小林善文著、『中国近代教育の普及と改革に関する研究』、汲古書院、2002年、p.368
- 36) 晏陽初著、宋恩榮編、「平民教育概论」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.61
- 37) 晏陽初著、宋恩榮編、「中华平民教育促进会定县实验工作大概」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.102
- 38) 晏陽初著、宋恩榮編、「平民教育概论」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.61
- 39) 同上、pp.50～51
- 40) 同上、pp.51～52
- 41) 同上、p.52
- 42) 同上、pp.58～59
- 43) 同上、p.59
- 44) 宋恩榮編、鎌田文彦訳、『晏陽初—その平民教育と郷村建設』、農山漁村文化協会、2000年、p.75
- 45) 同上、p.77
- 46) 晏陽初著、宋恩榮編、「中华平民教育促进会定县实验大概」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.103
- 47) 宋恩榮編、鎌田文彦訳、『晏陽初—その平民教育と郷村建設』、農山漁村文化協会、2000年、pp.77～78
- 48) 梅根悟監修、『世界教育史大系4 中国教育史』、講談社、1975年、p.120
- 49) 同上、p.120
- 50) 同上、p.102
- 51) 宋恩榮編、鎌田文彦訳、『晏陽初—その平民教育と郷村建設』、農山漁村文化協会、2000年、p.79
- 52) 晏陽初著、宋恩榮編、「中华平民教育促进会定县实验大概」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.103
- 53) 晏陽初著、宋恩榮編、「农村运动的使命」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.92
- 54) 晏陽初著、宋恩榮編、「中华平民教育促进会定县实验大概」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、pp.94～97
- 55) 同上、pp.99～124
- 56) 同上、pp.99～116

- 57) 同上、pp.117～119
- 58) 同上、pp.123～125
- 59) 同上、p.122
- 60) 小林善文著、『中国近代教育の普及と改革に関する研究』、汲古書院、2002年、p.390
- 61) 宋恩榮編、鎌田文彦訳、『晏陽初—その平民教育と郷村建設』、農山漁村文化協会、2000年、p.8
- 62) 晏陽初著、宋恩榮編、「平民教育概率」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.52
- 63) 同上、pp.52～53
- 64) 晏陽初著、宋恩榮編、「中华平民教育促进会定县实验大概」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.102
- 65) 晏陽初著、宋恩榮編、「关于平民教育精神的讲话」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.37
- 66) 晏陽初著、宋恩榮編、「中华平民教育促进会定县实验大概」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.119
- 67) 晏陽初著、宋恩榮編、「平民教育概论」『平民教育与乡村建设运动』、商务印书馆、2014年、p.55

主指導教員（相庭和彦教授）、副指導教員（雲尾周准教授・宮菌衛教授）